

CONTENTS

特集

どこまでわかった嚥下の中樞メカニズム



Editorial	杉山庸一郎	6
喉頭感覚と呼吸・嚥下制御機構	布施慎也	7
灌流ラットモデルを用いた咽頭期嚥下関連ニューロン解析	山本陵太	15
島皮質誘発嚥下の応答特性と上喉頭神経誘発嚥下との比較	辻村恭憲, 井上 誠	21
ヒト頭蓋内脳波を用いた嚥下上位中枢の解明と ブレインマシンインターフェースへの応用	平田雅之, 橋本洋章	29

●書評

『口にかかわるすべての人のための誤嚥性肺炎予防』	唐帆健浩	36
『Neurogenic Dysphagia』	山脇正永	36

●1枚の写真	二藤隆春	37
--------------	------	----

原著 論文


● 摂取物と嚥下方法が嚥下時の喉頭運動に及ぼす効果について	大森史隆, 他	40
● 急性大動脈解離 A 型の緊急手術後脳梗塞を合併し 嚥下障害をきたし人参湯投与による食道蠕動運動の改善から 嚥下機能の著明な改善を示した 1 例 	鈴木 暁, 他	49
● 腫瘍随伴性皮膚筋炎による重度嚥下障害に対して 喉頭挙上術を施行した症例 	石永 一, 他	56

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行期における嚥下障害診療への注意喚起

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止には各方面より様々な対策が講じられているが、残念ながら収束の兆しは未だ見えていない。このウイルスは主として飛沫・接触によって伝播するとされ、感染者の体内でもウイルス量が多いのは鼻腔・咽頭（上気道）である。また、エアロゾルを介した感染も報告されている。嚥下障害診療において、上気道粘膜との接触を伴う嚥下訓練や喀痰吸引、内視鏡下嚥下機能検査などの医療行為は咳嗽などの気道防御反射を誘発し、感染リスクの最も高いエアロゾル発生手技に相当する。

日本嚥下医学会は、COVID-19 流行が生じている地域では、嚥下障害診療に携わるすべての医療者が、診療行為に応じた感染リスクに対して最大限に注意を払い、感染経路別予防策を適正に遵守することを推奨する。

日本嚥下医学会（令和2年11月20日改訂）

- 喉頭癌に対する喉頭亜全摘術（SCL-CHEP）後の
嚥下訓練および長期的な嚥下機能 児玉成博, 他 62
- Forestier 病による輪状軟骨壊死を契機とした重度嚥下障害に対し
嚥下機能改善手術が奏効した1例  布施慎也, 他 71
- 化学放射線療法後の頸部食道膜様狭窄に
バルーンカテーテル訓練法で改善を得た1例 和田佳央理, 他 79

会告—— 1

日本嚥下医学会嚥下機能評価研修会のご案内—— 1

追悼 久 育男先生のご逝去を悼む—— 2

動画サイトのご案内—— 39

第46回日本嚥下医学会 総会 学術講演会プログラム集—— 86

日本嚥下医学会の認定する嚥下相談医等制度について—— 96

日本嚥下医学会認定嚥下相談医等制度運用規則—— 98

日本嚥下医学会認定嚥下相談医・嚥下相談員一覧—— 100

投稿規定—— 104

バックナンバー—— 109

日本嚥下医学会入会申込書—— 111

日本嚥下医学会変更届—— 112

購読申込書—— 113

 : 動画配信付き